

## 2011年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

姫路市立夢前中学校

「学校や地域資源を活用した青少年健全育成プロジェクト」

### 活動・研究の目的

現在の青少年を取り巻く環境は、生まれたときからインターネットや携帯電話が存在し、様々なメディアの中での生活が当たり前となっている。それゆえ、児童・生徒たちは、情報の氾濫により、正しい判断力や、よりよい社会を構成する人間像など望ましい価値観の確立が未熟である。そのため、メディアの影響を受けやすく、興味本位で飲酒等の危険行動に走る可能性がある。こうした中、昨年度より本校区は「学校や地域資源を活用した青少年健全育成プロジェクト」に取り組んでいる。このプロジェクトでは、学校・地域・警察・大学・市教育委員会が連携し、危険行動に進まない健全な心を身につけることや、危険行動を回避する対処法を学習する。また、地域ぐるみで青少年の健全育成を意識した環境をつくっていく活動の計画・実践・検証等を行っている。これらの取組により、未成年者の飲酒等の危険行動を未然に防止することを本活動・研究の目的とする。

### 実施内容

プロジェクトの遂行に向け、生徒・教職員・地域の取組を以下の6つで行っている。

#### (1) ライフスキル教育(生徒)

飲酒や喫煙などの危険行動を回避する力をつける授業を実施している。ロールプレイング等の参加型学習を取り入れ、飲酒の誘いを受けた時にどのように対処するかを考え、実践演習させる。また、危険行動は、セルフエスティームの低さに起因するといわれている。本校では、小学校と連携し、JKYBライフスキル教育プログラム(JKYB研究会編著)を用い、学年ごとの実態に合わせながら、セルフエスティームを高める授業を行っている。

#### (2) 地域体験交流活動(生徒、教職員、地域住民)

生徒が校外でも地域の方や小さな子どもと触れ合い、汗を流し働くことで成就感・達成感を実感できるよう、「夢咲き・きずな農園」を活用した農園作業を行っている。収穫時には、生徒や園児、PTA、教育委員会、警察官等、約100名の規模で作業をしている。また、地域の老人介護施設へ70名の生徒ボランティアらが訪問し、利用者に楽しんでいただける演奏や遊びを行っている。これらの活動は、地域の方に中学校の生徒を知っていただくよい機会にもなっている。

#### (3) 講座・講演会(生徒)

警察関係者による非行防止教室、防犯教室、非行防止劇、地域ふれあい事業、命の大切さを学ぶ授業等を全校生徒や学年ごとに行っている。講座によっては保護者や地域住民にも広報し、一緒に学んでいただける機会をつくっている。また、地域の老人会や和太鼓演奏者、制服デザイナー等を講師に招き、生徒が伝統文化に触れたり、社会で起こっている危険なことを知識として身につけたり、どのように回避すればよいかを考えたりする機会を持っている。

#### (4) 啓発活動(生徒、地域住民)

近年、生徒の意識には喫煙より飲酒を身近に感じている傾向がみられる。生徒へ

は、生徒会を中心に全校生徒に標語とポスターの募集を行い、未成年者の飲酒・喫煙は許されないことを再確認させている。長期休業中や地域行事中は、生徒の飲酒・喫煙の機会となりやすく、保護者や学校の目も届きにくい。そのため、生徒自身の自己指導能力に加え、地域の協力が必要となる。この地域の協力を求める活動として、未成年者飲酒喫煙防止キャンペーンを4月（G.W前）、9月（秋祭り前）、12月（正月前）の年間3回行っている。警察、校区の少年補導委員、校区のこども見まもり隊、姫路市危機管理室、教育委員会がチームとなり、生徒とともに地域へ出て、啓発活動を行っている。

#### （5）職員研修（教職員）

本校区小中学校合同研修開催、JKYB ライフスキル教育ワークショップ参加、先進校視察研修参加等により、本校の教職員全員がライフスキル教育を進めていく上で必要な指導力を高められるようにしている。また、市内外の小中学校教職員を対象に、本校にてライフスキル教育公開授業・講演会を開催（11/8）し、開発的・予防的生徒指導の取組として発信している。

#### （6）地域へ理解と協力を得るために（地域住民）

地域が一丸となり、青少年の健全育成に対する意識を高めたい。そこで、本校の取組への理解と協力を得るため、地域の教養講座、PTAのあすなろ教室、校区の愛護育成会総会、少年補導委員研修会、町別保護者会等で現状と取組を報告している。

### 成果と課題

#### （1）成果

ライフスキル教育の授業において、生徒は、「自分が認めてもらえる。」と感じたり、「他者の気持ちを想像し、接し方を考える。」ことについて楽しく感じたりしながら取り組んでいる。次の授業を楽しみにしている生徒も多い。また、普段の生活において、学んだことが生かされている。飲酒に関しては、「20歳まで絶対に飲まない。」と答える生徒の割合は、実施前と比較して増えている。「友人からの飲酒の誘いを断ることができる。」という生徒も増加している。健全な自尊心の傾向として、学年が上がるにつれ低下するといわれているが、今年の7月と12月の調査では、飲酒を勧められても断れる生徒の学年毎割合は、ほぼ一定で維持できている。また、同一集団においても飲酒防止の意識の改善が見られる。

また、本校の取組を知り、快く協力していただける方が増えてきている。農園作業や啓発活動への参加者数は生徒も地域の方も増えている。生徒と地域の方との接点が増えることにより、登下校中に気持ちのよい挨拶が響くようになってきている。

#### （2）課題

不健全な人間関係に依存し、危険行動と分かっている誘いに対して、はっきり「NO」とは言えない生徒や飲酒・喫煙などの危険行動をとってしまう生徒がいるという事実は、アンケート調査からも明らかである。ライフスキル教育に配当している年間13時間前後の学習時間の有効性をより高めていくために、発達段階や習得状況を考慮し、カリキュラムの再編に取り組んでいく必要がある。

また、保護者や地域の方は、本校の取組を徐々に知っていたいているが、大人が健全な自尊心を高める接し方を意識できるよう、さらに地域への啓発活動を充実・継続させていきたい。そして、このことが「地域全体で青少年の健全育成を行う環境づくり」につながると考える。

アサヒビール株式会社「未成年者飲酒予防基金」

今後も、「地域の子どもを地域で健全に育てよう。」を合言葉に、さらに仲間を増やし、活動を深めていきたい。